

## 戦後から現代までの日本の官能小説の発展と繁栄

「官能小説」というものは作品における 1 つの要素である性交を物語の主軸とし扱っており、特殊な官能表現が至る所に用いられている。官能小説は、時代や作者によって大きな差があり、その理由は歴史的な背景が大きく影響していることが今までの研究によって明らかにされている。より詳しい内容に関しては詳細を省かれていたり、様々な文献に分散していることが分かった。

そこで本研究では、官能小説の変化が顕著に見え始めた第 2 次世界大戦後から資料を整理し、どのように現代の官能小説に影響を与えてきたかについて時系列順に明らかにすることを試み、これからの性表現が歩むべき道についての考察をおこなった。戦後から現代に至るまで日本人の精神を陰ながら支えてきた官能小説は、明治政府によって築き上げられたキリスト教的な価値観によって長い間縛られていた。しかし長い規制の歴史の中で、あるものはマニアックな嗜好を活かし、またある者は独自の表現で規制を掻い潜り進化を遂げていった。そして最後に海外から来た旧来の価値観を破壊する要因となったのは、皮肉にも旧来の価値観に反発を持った海外の来た新たな価値観であった。表現の自由を手にした官能小説は法的な問題から脱却し誰でも当たり前のように執筆が可能になったこと、特殊な表現技法を無理に用いる必要が無くなったことや比較的安易な文章でも受け入れられるようになったことにより書き手のハードルが下がったことにより多くの執筆者の排出、読者層の確保に成功した。しかしながら表現の自由を手にした代わりに、新たな成人向け媒体の登場により少しばかり影が薄くなってしまったのもまた事実である。インターネットの時代となった現代においては、電子書籍の登場や人気絵師の活躍によって新たな読者層の開拓がおこなわれるようになった。そして水面下においても小説投稿サイトで自由な文体、テーマの作品が日々投稿され、無限の広がりを見せている。

様々な媒体で用いられている性表現に関して、現代では批判派や肯定派の間で様々な意見が飛び交っている。そんな中で必要なことは互いに一歩引きあうことである。既存の価値観を無理に捻じ曲げてしまえば、また不毛な争いが勃発し、両者のどちらかが望まない結果となり、また新たな火種となる。なので成人向けコンテンツを一種のグレーゾーンとしてその実態に関してあまり踏み込まないことが必要だと考えられる。